

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|---------------------------------|--|---------|-------|
| 情報処理概論 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 四宮 直子 |
| 授業の概要 | | | | |
| タッチタイピングの習得 Excelの基礎知識 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピングを身につけ、速く正確にタイピングができる ・Excelの基礎知識を習得する <ul style="list-style-type: none"> ①セルに文字入力ができる ②表の作成ができる | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| タッチタイピングの練習 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | タッチタイピング | タッチタイピングの練習法 ホームポジション タイピング練習-基礎編 (マイタイピング:タイピング練習講座) (マナビジョン:タイピング練習ホームポジション) | | |
| 2 | タッチタイピング | タッチタイピングの練習法 ホームポジション タイピング練習-習得編 (マイタイピング:タイピング練習講座) (マナビジョン:タイピング練習日本語入力) | | |
| 3 | タッチタイピング | ホームポジション練習 日本語入力 (マナビジョン:タイピング練習日本語入力) | | |
| 4~5 | Excel入門 | Excel2019の画面構成 データ入力の基礎 ①数値のデータ入力 ②文字列の入力 ③データの消去 ④ファイルの保存と読み込み ⑤印刷 | | |
| 6~9 | Excel:基本的なワークシートの編集、ワークシートの書式設定 | セルの挿入・削除、移動・コピー、データの修正、連続データの入力、数式の入力 列幅と行の高さの変更、表示形式、文字の配置とフォント、罫線・塗りつぶし | | |

| 回 | テ ー マ | 内 容 | | |
|-------------------------|--------------------------|---|------------------------|-----|
| 10~ 12 | Excel : グラフの作成、グラフの設定の変更 | 棒グラフ、円グラフの作成 系列の変更、数値軸目盛の変更、グラフの種類の変更、 データ系列の書式設定、軸ラベルの設定、データラベルの 設定、フォントの変更 | | |
| 13~ 14 | Excel : オートSUMの利用 | 大値・最小値 (MAX・MIN) 平均 (AVERAGE) 数値の個数 (COUNT) | | |
| 15 | 確認テスト | タッチタイピングテスト Excel基本操作テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 30時間でマスターWord&Excel2019 | | 出席率 課題・レポート 期末試験 | 5.0% 25.0% 70.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--|-------------------------------------|---------|---|
| 生物学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 大南 朋子 |
| 授業の概要 | | | | |
| 歯科学は生命科学の重要な一員であるため、生物学は歯科衛生士を志す者には重要な教養科目となる。 一般教養としての生物学を学ぶとともに、国家試験の生理学分野の内容も含めていく。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 一般教養としての生物学について基礎知識が身につく。 国家試験科目の生理学の内容と重なっている部分を解けるようになる。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| ・主体的に授業に参加し学習する。 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 生物学の授業進行について 学生の自己紹介 I-1章 生命とは何か | 1年間で学ぶことについて 生命をつくっている物質について | | |
| 2 | I-2章 生命の誕生 I-3章 生命の変換 | どのようにして生物は生まれたか 生物の進化について | | |
| 3 | II-1章 生物は細胞からできている | 細胞小器官とその活動 | | |
| 4 | II-2章 細胞の一生と個体の成り立ち | 細胞と組織・器官 | | |
| 5 | III-1章 生殖によって子孫をつくる III-2章 遺伝と遺伝子 | 生殖と減数分裂 遺伝の法則とDNA | | |
| 6 | III-2章 遺伝と遺伝子 III-3章 発生して体をつくる | 遺伝の法則とDNA 発生の過程と仕組み | | |
| 7 | IV-1章 刺激の受容と反応 IV-2章 内部環境を保つ仕組み | 神経と刺激の伝達 体液・ホルモン・自律神経 | | |
| 8 | IV-3章 動物の行動 まとめ | 本能と習得的行動 学んできたことの総まとめ | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 生物学 オリジナルプリント | | 期末試験 | 100.0% | ・主体的に授業に参加し学習する。 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する |

| | | | | |
|------|-----|------------|---------|--------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 外国語 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 西良 美智子 |

授業の概要

1. 基本的日常会話能力(リスニング、スピーキング)の養成
2. 歯科衛生士業務の際の英会話を理解し習得させる
3. 基礎的な文中の文法を理解させる
4. 西洋諸国の多様な文化、風習、マナーの相違等への理解を深める
5. ペアによる英会話練習により実践力を向上させる
6. 歯科衛生士にとって興味深い読み物を英語で読んでみる

授業終了時の到達目標

1. 英語を話すことに対する抵抗感をなくする
2. 基本会話を習得するとともに外国への関心を高め、理解を深める
3. 歯科衛生士業務に必要な基礎英語力を習得する

実務経験有無

実務経験内容

時間外に必要な学修

テキストの予習、復習。学習した単語を覚える。テキストの音読練習。

| 回 | テーマ | 内容 |
|---|--|--|
| 1 | 基本の英会話1 歯科英語テキスト1 Making an appointment by telephone | プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での歯科医院における電話予約の学習、練習。 |
| 2 | 基本の英会話2 歯科英語テキスト2 Request for medicine | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って、英語での薬のリクエストについて学習、練習。 |
| 3 | 基本の英会話3 歯科英語テキスト3 Emergency appointment | 回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って、英語での緊急予約について学習、練習。 |
| 4 | 基本の英会話4 歯科英語テキスト4 National health insurance | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での国民健康保険についての説明、練習。 |
| 5 | 基本の英会話5 歯科英語テキスト5 Asking Patient to describe symptoms | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語で患者さんに症状を聞く学習、練習。 |
| 6 | 基本の英会話6 歯科英語テキスト6 Asking the medical history | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での患者さんに対してメディカルヒストリーの聞き方について学習、練習。 |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------|---|--|----------------|----------------------|
| 7 | 基本の英会話7 歯科英語テキスト7 Periodontal disease | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での歯周病について学習、練習。 | | |
| 8 | 基本の英会話8 歯科英語テキスト8 Pregnancy | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での妊娠中の歯科治療および口腔衛生について学習、練習。 | | |
| 9 | 基本の英会話9 歯科英語テキスト9 Do I need a cleaning? | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での定期的な歯科医院でのクリーニングの重要性の説明の学習、練習。 | | |
| 10 | 基本の英会話10 歯科英語テキスト10 Informed consent | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのインフォームドコンセントの学習、練習。科学的英語の読み物。 | | |
| 11 | 基本の英会話11 歯科英語テキスト11 Sealant | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのシーラントの説明の学習、練習。科学的英語の読み物。 | | |
| 12 | 基本の英会話12 歯科英語テキスト12 Fluoride treatment | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語でのフッ素トリートメントの説明について学習、練習。 | | |
| 13 | 基本の英会話13 歯科英語テキスト13 Tooth brushing instructions for a child | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での子どもに対する歯みがき指導について学習、練習。 | | |
| 14 | 基本の英会話14 歯科英語テキスト14 Tooth brushing instructions for an adult | 前回の内容の小テスト。プリントを用いた基本の英会話学習。テキストに沿って英語での大人に対する歯磨き指導、治療終了後の説明について学習、練習。 | | |
| 15 | 学年末テスト | 学年末テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科英語 医歯薬出版株式会社 | | 出席率 期末試験 | 30.0% 70.0% | レポート提出で成績に加味することもあり。 |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|---------------|---|---------|--------|
| 接遇マナー | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 近藤 ちづる |
| 授業の概要 | | | | |
| 1. ビジネス社会・企業などの組織の一員として活躍するために必要な社会常識や心構えを学ぶ 2. 職場でよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションのスキルを学ぶ 3. 業務処理に必要な接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 社会の仕組み・経済用語・ビジネス用語を理解して、社会人として必要な基本的知識を習得している 2. 社内外の人との良好な人間関係を築くために、適切な敬語表現を活用し、正確なビジネス文書を作成し、さまざまなビジネスの場での状況対応ができる知識・技能を身につけている 3. 指示された仕事を遂行するために、職場のマナー・来客対応・電話対応の基本、結婚・弔事のマナー、文書の取り扱いなどの知識・技能を身につけている | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 1. 配られたプリント等の記入漏れなどがいないか確認し、適切にファイリングする 2. 前回学んだことを復習しておく | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | 動機付け マナーとは | 1. 接遇マナーを学ぶ理由 2. 常識とマナーの違い 3. 医療接遇マナーとは 4. ケアコミュニケーション | | |
| 3~4 | 言葉遣いのマナー | 1. 傾聴の重要性 2. 敬語の知識 3. 相手が受け入れてくれる話し方 | | |
| 5~6 | ワンランク上の話し方 | 1. コンビニ言葉を遣わない 2. 語尾を丁寧にする 3. あとよし言葉 4. ポジティブに話す | | |
| 7 | 職場のマナー | 1. はじめ 2. ほうれんそう 3. 成長 4. 案内の要領 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|---|--------------|---|----------------|----------------------------------|
| 8 | 患者さま接遇のマナー | 1. 接遇の目的と重要性 2. 患者さま接遇の心構え 3. 患者さま接遇の流れ 4. 接遇の実際 5. 料金精算 6. 診察券 7. 名刺のマナー | | |
| 9 | 茶菓の接待のマナー | 1. お茶の入れ方 2. お茶の出し方 | | |
| 10～ 11 | 電話対応のマナー | 1. 電話対応の重要性 2. 電話対応の目的とポイント 3. 取次ぎの電話の要領 4. 伝言メモの知識 | | |
| 12～ 14 | 社会人常識マナー検定対策 | 1. 過去問題を解く 2. 解答、解説 | | |
| 15 | 復習と確認テスト | 1. 前期学んだことの復習 2. 確認テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 社会人常識マナー検定試験3級 最新過去問題集(全国経理教育協会) プリントほか | | 期末試験 出席率 | 90.0% 10.0% | 【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|-----------|--|---------|------|
| 解剖学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 江口 寛 |
| 授業の概要 | | | | |
| 人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 歯科医師として31年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし解剖学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | 細胞と組織、骨格系 | 細胞(細胞の構造と機能)、組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)骨格系概説(骨の機能、骨の構造、骨の形態、骨の連結、体の部位による骨の分類)、骨の発生、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨 | | |
| 3~4 | 筋と運動 | 筋の形状と分類、筋の構造と機能、体の各部位の筋系(頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋)、運動(運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節)、筋電図 | | |
| 5~6 | 消化と吸収 | 消化器の構造(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜) | | |
| 7~8 | 循環 | 血管の構造、心臓(心臓の位置と形態、心臓の内部構造、心臓壁の構造、心臓の血管、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系(リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓)) | | |
| 9 | 神経系 | 神経系の構成、中枢神経系(脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能)、脳脊髄膜(硬膜、クモ膜、軟膜)、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路 | | |
| 10 | 神経系 | 神経系の構成、中枢神経系(脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能)、脳脊髄膜(硬膜、クモ膜、軟膜)、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路 | | |
| 11 | 呼吸 | 呼吸、呼吸器の構成(上気道、下気道・肺)、胸郭の構造 | | |
| 12 | 感覚 | 外皮(皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置)、特殊感覚器の構造(視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器) | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------------|-------------|--|-------------------------|--------------------------------|
| 13 | 排泄 | 排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射） | | |
| 14 | 内分泌 | 内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体 | | |
| 15 | 生殖 確認テスト | 男性生殖器、女性生殖器 確認テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版） | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 10.0% 10.0% 80.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|-----------------|-------------------------------------|----------------|-------|
| 組織・発生学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 松澤 鎮史 |
| 授業の概要 | | | | |
| 組織と発生について 顔面と口腔の発生について 歯および歯周組織の発生と組織学的特徴について | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 人体の骨格をなす組織とその発生について理解を深める 顔面と口腔の発生について学ぶことで、口腔内に発生する疾患を理解するための礎を築く 歯と歯周組織の組織学的特徴の理解を深める | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 細胞 | 細胞、細胞膜、細胞質、核の機能 細胞内小器官、細胞の増殖と寿命 | | |
| 2 | 上皮組織と支持組織 | 上皮組織・支持組織 | | |
| 3 | 発生 | 染色体と減数分裂、精子・卵子、受精と着床 胚葉の形成、胎児の成長 | | |
| 4 | 歯および歯周組織の構造と機能① | エナメル質、象牙質・歯髄複合体 | | |
| 5 | 歯および歯周組織の構造と機能② | セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉 | | |
| 6 | 顔面と口腔の発生 | 顔面、口腔、口蓋、口唇、舌、腺の発生 | | |
| 7 | 歯と歯周組織の発生 | エナメル質、象牙質、セメント質の発生 歯の萌出過程と歯の交換 | | |
| 8 | 確認テスト | 確認テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学(医歯薬出版株式会社) 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学(医歯薬出版株式会社) | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|-------|---|---------|------|
| 生理学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 江口 覚 |
| 授業の概要 | | | | |
| 人体の各種の機能とメカニズムを理解すること。個体を構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解すること。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 人体の各種の機能とメカニズムを適切な生理用語を用いて説明できること。ならびに個体の健康維持のために、これを構成する組織・器官がどのように統合され・協調されているかを理解することで、歯科衛生士として適切に対処できることを目標とする。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 江口覚：歯科医師として31年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし生理学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 筋と運動 | 筋の構造と機能(頭部の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋)、運動(運動ニューロン、反射と随意運動、姿勢調節)、筋電図 | | |
| 2 | 消化と吸収 | 消化と吸収の意義(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜)、口腔での消化、胃の機能(胃の運動、胃液)、小腸の機能(小腸の消化液、小腸の運動、腸での吸収)、大腸の機能(大腸での吸収、大腸の運動、排便反射) | | |
| 3 | 循環 | 血管の機能(血圧、血液量の調節、血圧の調節、ショック)、血液(血液の成分、血液の機能、血液の凝固と溶解、血液型と輸血)、心臓(心臓の拍動のコントロール、心臓の活動電位と心電図)、動脈系、静脈系、胎児の循環系、リンパ系(リンパ管、リンパ節、胸腺、脾臓) | | |
| 4 | 神経系 | 中枢神経系(脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳、脳波、高次機能)、脳脊髄膜(硬膜、クモ膜、軟膜)、脳の血管、末梢神経系、脳神経、脊髄神経系、自律神経系、神経系の主な伝導路 | | |
| 5 | 呼吸 | 胸郭の構造と換気の仕組み、肺気量と換気量、肺胞および組織におけるガス交換、血液中のO ₂ とCO ₂ の運搬 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------------|-----------------|---|-------------------------|--------------------------------|
| 6 | 感覚 | 感覚の基本的性質、体性・内臓感覚（皮膚の感覚、内臓の感覚、痛覚）、外皮（皮膚、粘膜、皮膚の感覚装置）、-特殊感覚器の構造と機能（視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器） | | |
| 7 | 排泄・体温 | 排泄とは、排便、皮膚からの排泄（発汗）、排尿、膀胱からの排尿の仕組み（排尿反射）、体熱の産生、体熱の放散、体温の調節、体温の変動 | | |
| 8 | 内分泌・生殖 確認テスト | 内分泌器官とホルモン、内分泌器官の構造と機能（下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）、血中カルシウム濃度の調節、膵臓、副腎）、性腺、精巣、卵巣、松果体、歯とホルモン、男性生殖器、女性生殖器、性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版） | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 10.0% 10.0% 80.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|----------|---------------------------------|----------------------------------|-------|
| 口腔解剖学 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 福井 裕美 |
| 授業の概要 | | | | |
| 口腔とその周囲の解剖学 P2~71 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 口腔と周囲の解剖の概要を知る | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | これまでの歯科医師としての25年の経験を活かし講義する。 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 復習・宿題 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 口腔とは | 固有口腔・口腔前庭・表面 | | |
| 2~4 | 口腔を構成する骨 | 頭蓋の骨・口腔を構成する骨 | | |
| 5~6 | 頭頸部の筋 | 表情筋・咀嚼筋・頭頸部の三角・隙 | | |
| 7 | 顎関節 | 顎関節の構造・働き | | |
| 8~9 | 口腔周囲の脈管 | 動脈系・静脈系・リンパ系 | | |
| 10~12 | 神経 | 脳神経・自律神経 | | |
| 13 | 唾液腺 | 三大唾液腺について | | |
| 14 | 咽頭と喉頭 | 嚥下・咽頭 喉頭の構造 | | |
| 15 | 復習・テスト | | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社 配布、頭蓋模型 | | 出席率 確認テスト 課題・レポート 期末試験 | 30.0% 20.0% 30.0% 20.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---------|---------------------------|----------------|-------|
| 口腔解剖学Ⅱ | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 松香 芳三 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>①歯科衛生士として歯の形態を立体的に学ぶことは非常に重要である。特に、口腔内で見えない歯根の形態を理解することは適切なスケーリングを行う際に必須の知識となる。本授業を通して、学生は歯の形態を理解する。</p> <p>②口腔付近の解剖学</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>①教科書や配布資料、拡大模型を参考にして、歯のスケッチができる。歯の解剖学的名称を説明できる。石膏棒を彫刻するための器具を正しく安全に使用できる。石膏棒を彫刻することができる。</p> <p>②口の中、歯だけでなく、頭頸部の筋肉や神経、血管系と合わせて知識として持つ。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯の形態・名称 | 上顎右側中切歯と上顎右側第一大臼歯のスケッチ | | |
| 2 | 歯型彫刻 | 上顎右側中切歯の歯型彫刻 | | |
| 3 | 歯型彫刻 | 上顎右側中切歯の歯型彫刻 | | |
| 4 | 歯型彫刻 | 上顎右側中切歯ならびに上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻 | | |
| 5 | 歯型彫刻 | 上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻 | | |
| 6 | 歯型彫刻 | 上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻 | | |
| 7 | 歯型彫刻 | 上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻 | | |
| 8 | 実習試験 | 歯の形態の理解を問う | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 模型 | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|---------|-------|
| 病理学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 松澤 鎮史 |
| 授業の概要 | | | | |
| 全身および口腔の疾病の原因、発生機序、転帰を学ぶ | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 疾患の原因、経過と転帰を理解し説明できる | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1章 病理学序論と病因論 2章 遺伝性疾患と奇形 | 病理学とは、内因と外因 先天異常、奇形の発生と病因 | | |
| 2 | 3章 循環障害 | さまざまな循環障害 | | |
| 3 | 4章 代謝障害と退行性病変 | 代謝障害、退行性病変(変性・萎縮・壊死) | | |
| 4 | 5章 代謝障害と退行性病変 | 進行性病変(増生・肥大・化生)、再生と修復 | | |
| 5 | 6章 炎症と免疫応答異常 | 炎症、免疫応答、アレルギー、自己免疫疾患 | | |
| 6 | 7章 腫瘍 | 上皮性・非上皮性腫瘍、良性・悪性腫瘍 | | |
| 7 | 1章 歯の発育異常 | さまざまな原因で生じる歯の異常 | | |
| 8 | 2章 歯の損傷と着色・付着物 3章 う蝕 | 咬耗・摩耗/う蝕の病態 | | |
| 9 | 4章 象牙質・歯髄複合体の病態 | 歯髄炎・象牙質知覚過敏症 | | |
| 10 | 5章 歯周組織の病態 | 根尖部歯周組織の病態、辺縁部歯周組織の病態 | | |
| 11 | 6章 口腔粘膜の病変 | 口腔粘膜の特徴、ウイルス感染 | | |
| 12 | 7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 8章 口腔癌 | 原性・非歯原性の嚢胞および腫瘍/ 口腔潜在的悪性疾患と口腔癌 | | |
| 13 | 9章 顎骨の病変 10章 唾液腺の病変 | 骨髄炎/良性・悪性唾液腺腫瘍など | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|------------------------------------|------------------------------------|-------------|----------------|--------------------------------|
| 14 | 11章 口腔領域の奇形（形成異常） 12章 口腔組織の加齢変化 | 奇形症候群/加齢変化 | | |
| 15 | 期末試験 | 期末試験 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学 (医歯薬出版株式会社) | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| | | | | |
|------|-----|------------|---------|-------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 微生物学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 廣島 佑香 |

授業の概要

口腔領域および全身の感染症の原因となる微生物の種類、構造、病原性について学習する。
 口腔微生物学では、口腔微生物の病原性とそれに対する宿主の防御機構、全身疾患との関連性について学ぶ。
 病原微生物学では、感染症を引き起こす代表的な病原微生物の性質や発生のメカニズムなどについて学ぶとともに、感染症に対する宿主の防御機構(免疫)とアレルギーについて学ぶ。

授業終了時の到達目標

学んだ知識を実際の診療、予防処置に応用できるようにする。

実務経験有無 実務経験内容

| | |
|--------|--------|
| 実務経験有無 | 実務経験内容 |
| | |

時間外に必要な学修

| |
|-----------|
| 時間外に必要な学修 |
| |

| 回 | テーマ | 内容 |
|-----|---|--|
| 1~3 | I編 微生物学 微生物学の概要、感染 微生物学総論 | 微生物の種類と性質、感染の成立、感染の種類 微生物の分類、培養法 |
| 4 | I編 微生物学 化学療法 | 主な化学療法薬の種類と特徴 |
| 5 | I編 微生物学 消毒と滅菌 | 主な消毒法と滅菌法 標準予防策 |
| 6 | II編 口腔微生物学 口腔環境と常在微生物 バイオフィルムとしてのプラーク | 微生物と口腔環境、口腔常在微生物 プラークの形成機序と成熟 バイオフィルム感染症 |
| 7 | II編 口腔微生物学 う蝕の細菌学 | う蝕の発生機序 う蝕原性細菌と病原因子 |
| 8 | II編 口腔微生物学 歯周病の細菌学 その他の口腔感染症 | 歯周病原細菌と病原因子 その他の口腔感染症 |

| 回 | テーマ | 内容 | | |
|-----------------------|---|--|----------------|-----|
| 9 | Ⅲ編 病原微生物学 主な病原細菌 | グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌 グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌、スピロヘータ マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア | | |
| 10~ 11 | Ⅲ編 病原微生物学 歯科に関連するウイルス、真菌、 原虫、プリオン | ウイルス、真菌 原虫、プリオン | | |
| 12~ 14 | Ⅳ編 免疫学 免疫、アレルギー | 免疫の種類、生体バリア機構、自然免疫、抗原提示 獲得免疫、ワクチン、アレルギー | | |
| 15 | 期末テスト | 期末テスト 顕微鏡で細菌観察 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 微生物学（医歯薬出版） | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|---|--|---------|-------|
| 薬理学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 瀬川 陽美 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>1. 薬理学の総論：薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の副作用、有害作用、薬物と薬事関係法規など、薬理学に関する基本的事項を理解する。</p> <p>2. 各論：神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、血液に作用する薬物、悪性腫瘍を薬、代謝性疾患治療薬、抗感染薬、歯内療法薬、歯周疾患治療薬等において、使用される薬物の作用機序、効能・効果、副作用等について、理解する。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>1. 医療従事者として、薬物の有用性と危険性を把握し、歯科衛生士としての業務を通じて、質の高い医療を提供する。</p> <p>2. 歯科衛生士国家試験に合格するレベルの学力を体得する。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| [準備学習] 次回の授業内容について、教科書を用いて予習する。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | (総論) 1章 薬物の作用 2章 薬物動態 3章 薬物の適用方法の種類と特徴 4章 薬物の作用に影響を与える要因 | 1章 薬物療法、薬理作用の基本形式、薬物の用量と作用等 2章 薬物の生体膜通過様式、薬物動態等 3章 薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の経口投与と注射の利点と欠点等 4章 薬効に影響する因子と生体の感受性等 | | |
| 2 | (各論) 5章 薬物の副作用、有害作用 6章 医薬品を適用する際の注意 7章 薬物の取扱 8章 薬物と法律、医薬品開発 | 5章 歯科領域における薬物による副作用、有害作用等 6章 薬物投与における妊婦・授乳婦、乳幼児、小児の特徴等 7章 薬物の剤型、処方箋の記載事項等 8章 医薬品医療機器等法、日本薬局方、医薬品の分類、毒薬、劇薬の表示等 | | |
| 3 | (各論) 1章 ビタミンとホルモン 2章 末梢神経系 3章 中枢神経系に作用する薬物 | 1章 主なビタミン、ホルモンの薬理作用、カルシウム代謝に関与するビタミン、ホルモン 2章 末梢神経系の構造と機能等 3章 全身麻酔薬の働き、中枢神経興奮薬の働き等 | | |
| 4 | (各論) 4章 循環器系 5章 腎臓 6章 呼吸器系 | 4章 高血圧治療薬、不整脈治療薬、心不全治療薬等 5章 主な利尿薬とその作用機序等 6章 主な気管支喘息治療薬、鎮咳薬等 | | |
| 5 | (各論) 7章 消化器系 8章 血液 9章 免疫と薬 | 7章 消化性潰瘍治療薬の作用機序等 8章 止血機構、主な局所性止血薬等 9章 免疫増強薬の適応症と主な薬物等 | | |
| 6 | (各論) 10章 悪性腫瘍と薬 11章 代謝性疾患治療薬 | 10章 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、主な抗悪性腫瘍薬と作用機序等 11章 糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬等 | | |

| 回 | テ ー マ | 内 容 | | |
|--------------------------------------|--|---|----------------|-----|
| 7 | (各論) 12章 炎症と薬 13章 痛みと薬 14章 局所麻酔薬 | 12章 炎症の五大徴候、炎症のケミカルメディエーター、ステロイド性及び非ステロイド性抗炎症薬と作用機序等 13章 麻酔性及び非麻酔性鎮痛薬の働き等 14章 局所麻酔薬の作用機序等 | | |
| 8 | (各論) 15章 抗感染症薬 | 15章 抗感染症薬の作用機序、副作用、主なペニシリン系抗菌薬並びにセフェム系抗菌薬、アミノグリコシド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬等、作用機序及び副作用等 | | |
| 9 | (各論) 16章 消毒に使用する薬 17章 う蝕予防薬 18章 歯内療法薬 | 16章 消毒薬の作用機序、消毒薬の効果に影響を与える因子、消毒薬の化学的な性質等 17章 フッ化物のう蝕抑制機序、歯面塗布に使用するフッ化物等 18章 歯髄の保存療法の用いる薬物、感染根管治療に用いる薬物等 | | |
| 10 | (各論) 19章 歯周疾患治療薬 20章 顎・口腔粘膜疾患と薬 21章 漢方医学と薬物 | 19章 歯周治療において局所投与される薬物、歯周治療において全身投与される薬物、洗口薬、口臭治療薬等 20章 歯性感染症に用いる薬物、口腔粘膜疾患に用いる薬物等 21章 西洋医学と漢方医学の違い、漢方薬等 | | |
| 11 | 薬理学（総論、各論）の復習（重要ポイント） 国家試験過去問題演習 | | | |
| 12 | 薬理学（総論、各論）の復習（重要ポイント） 国家試験過去問題演習 | | | |
| 13 | 薬理学（総論、各論）の復習（重要ポイント） 国家試験過去問題演習 | | | |
| 14 | 薬理学（総論、各論）の復習（重要ポイント） 国家試験過去問題演習 | | | |
| 15 | 期末試験 | 期末試験 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版（医歯薬出版株式会社） | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|--|---------|-------|
| 健康 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 福原 里奈 |
| 授業の概要 | | | | |
| 全身疾患(代謝・内分泌、消化器、循環器、血液、呼吸器、腎・泌尿器、免疫、感染、神経、精神、がん、産科・婦人科)について | | | | |
| 認知症について | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 全身疾患についてポイントが理解できる。 | | | | |
| 認知症について理解できる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 授業の復習 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | ①全身疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 ②代謝・内分泌疾患 ③消化器疾患 | 糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、胃食道逆流症、胃炎・胃癌、胃・十二指腸潰瘍、肝炎・肝硬変 | | |
| 2 | ①循環器疾患 ②血液疾患 ③呼吸器疾患 | 心疾患・不整脈、高血圧・低血圧、貧血、白血病、血友病、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、結核、睡眠時無呼吸症候群、腎疾患、下腹尿路疾患 | | |
| 3 | ①免疫疾患・膠原病 ②感染症 ③神経疾患 | アレルギー、膠原病、シェーグレン症候群、アトピー性皮膚炎、インフルエンザ、カンジダ症、後天性免疫不全、脳血管障害、てんかん、認知症、神経難病 | | |
| 4 | ①精神疾患 ②がん ③産科・婦人科疾患、妊娠 | 心身症・神経症、うつ病、統合失調症、発達障害、がん、頭頸部がん、妊娠による身体の変化、更年期障害、検査値、紹介状、照会状、医療面接のポイント | | |
| 5 | 認知症の理解 第1章 認知症を取り巻く状況 | 認知症ケアの理念 認知症の概念 | | |
| 6 | 認知症の理解 第2章 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 認知症の原因疾患とその病態 原因疾患別のケアのポイントと健康管理 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--|--|---|----------------|-----|
| 7 | 第3章 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 第4章 家族への支援 | 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症利用者への対応 介護家族の現状の理解 | | |
| 8 | まとめ 期末試験 | まとめ 期末テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 全身疾患ハンドブック 介護職員初任者研修テキスト第2 人間と社会・介護2 認知症の理解 | | 期末試験 出席率 | 90.0% 10.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|----------------------|--|---------|-------|
| 口腔衛生学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 大川 敏永 |
| 授業の概要 | | | | |
| 1. 口腔の健康および口腔保健の理解 2. 歯・口腔組織および口腔関連疾患(う蝕・歯周病・その他関連疾患)の理解 3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法の理解 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 口腔の健康および口腔保健に関する基礎的な知識の習得 2. 歯・口腔組織の基礎的な知識および口腔関連疾患(う蝕・歯周病・その他関連疾患)に関する基礎的な知識の習得 3. う蝕・歯周病・その他関連疾患の予防法に関する基礎的な知識の習得 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1. 歯・口腔の健康と歯・口腔組織の基礎 | 1) 歯・口腔の健康 2) 歯・口腔の構造と発生 3) 歯・口腔の成長と発育 | | |
| 2 | 2. 歯・口腔の機能と全身の健康、付着物 | 1) 摂食・咀嚼・嚥下 2) 口腔の健康と全身の健康 | | |
| 3 | 3. 歯科疾患の基礎 | う蝕と歯周病および口腔関連疾患の特性 1) う蝕のメカニズム 2) う蝕の予防法と治療法 | | |
| 4 | 4. 口腔清掃 | 1) 口腔清掃法 | | |
| 5 | 5. う蝕予防基礎 | 1) う蝕メカニズムと予防法および治療法 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--|-------------------|--|------------------------|--------------------------------|
| 6 | 6. フッ化物によるう蝕予防基礎礎 | 1) フッ化物の特性 2) フッ化物応用によるう蝕予防とそのメカニズム | | |
| 7 | 7. 歯周疾患予防の基礎 | 1) 歯周組織の構造 2) 歯周疾患の種類と原因およびリスクファクター 3) 歯周疾患の全身への影響 4) 歯周疾患の予防法とその治療法 5) 歯周定期管理の重要性 | | |
| 8 | その他の疾患・異常の予防 | 1) 口内炎・口腔癌の実態と予防 2) 不正咬合の実態と予防 3) 顎関節症の実態と予防 4) その他疾患の実態と予防 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 8.0% 42.0% 50.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|------------------------------|------------------------------------|----------------|-------|
| 公衆衛生学 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 川村 久恵 |
| 授業の概要 | | | | |
| I. 健康を左右する環境について | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力が高めることができる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 健康を左右する環境 1) 総論 | 保健生態学とは 健康・予防医学の概念 | | |
| 2 | 2) 疫学 | 疫学の定義および概要 疫学の方法 | | |
| 3 | 3) 人口 | 人口の動向 人口動態統計と生命表 | | |
| 4 | 4) 健康と環境 | 環境の概念 空気・水・放射線・住居・衣服と健康および影響 | | |
| 5 | 5) 感染症 | 感染症の成り立ちと予防 主な感染症の動向 | | |
| 6 | 6) 食品と健康 | 食品保健 栄養と健康 | | |
| 7 | 健康にかかわる地域の役割 1) 地域保健・公衆衛生 | 地域社会と地域保健の概念 地域保健の組織、地域保健の新たな概念 | | |
| 8 | 期末テスト | 学んだ内容の理解を図る | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 保健生態学(医歯薬出版株式会社) | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|-------------------|---|----------------|-------|
| 公衆衛生学Ⅱ | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 川村 久恵 |
| 授業の概要 | | | | |
| Ⅱ. 健康に関わる地域の役割 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 生活と健康にかかわる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高めることができる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1) 地域保健・公衆衛生 | 地域保健活動のすすめ方 健康づくり対策と地域歯科保健 | | |
| 2 | 2) 母子保健 | 母子保健の目的および概要、現状と今後 歯・口腔について | | |
| 3 | 3) 学校保健 | 学校保健の意義および概要、活動と組織 学校歯科保健 | | |
| 4 | 4) 成人保健5) 産業保健 | 成人保健の意義と特徴、活動の現状 成人保健対策、成人期の歯科保健 産業保健の概念および活動 職業性疾病と産業保健管理 | | |
| 5 | 6) 老人(高齢者)保健・精神保健 | 老人(高齢者)保健の意義および行政関係法 精神保健の現状、精神障がい者の歯科保健 | | |
| 6~7 | 7) 災害時の歯科保健、国際保健 | 災害時の保健医療対策と歯科保健活動 WHO・JICAの活動、世界の歯科保健の状況と戦略 | | |
| 8 | 期末テスト | 学んだ内容の理解を図る | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 保健生態学(医歯薬出版株式会社) | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--------------|--|---------|-------|
| 栄養指導・生化学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 佐藤 優子 |
| 授業の概要 | | | | |
| 1. 生化学を学び、その知識をもとに栄養学を理解させる 2. 体内のエネルギー代謝や物質代謝を理解させる 3. 歯、唾液、う蝕等を生化学的に学ぶ 4. 栄養学を学ぶ意義、各栄養素の働きを理解させる 5. 望ましい食生活、ライフスタイルを理解させる | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 歯科衛生士として必要な生化学、栄養学の知識を習得する 2. 歯科衛生士として栄養指導することができるよう深い知識を身につける | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 生体の構成要素 | 細胞の役割 生体における水 生体構成成分と栄養素 | | |
| 2 | 生体における化学反応 | 消化と吸収 酸素の運搬と二酸化炭素の排出 代謝 | | |
| 3 | 糖質と脂質の代謝 | エネルギー代謝の全体像 糖質の代謝とエネルギーの生成 脂質の代謝とエネルギーの生成 | | |
| 4 | タンパク質アミノ酸の代謝 | たんぱく質の下垂分解 アミノ酸の代謝分解 たんぱく質の合成 | | |
| 5 | 生体における恒常性の維持 | 恒常性とは ホルモン系と自律神経系 | | |
| 6 | 歯と歯周組織の生化学 | 歯と歯周組織 結合組織 歯 | | |
| 7 | 硬組織の生化学 | 血清中のカルシウムとリン酸 石灰化の仕組み 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|-------------------------|------------|--|-------------------------|-------------------------------------|
| 8 | 唾液の生化学 | 唾液の組織と機能 | | |
| 9 | プラークの生化学 | プラークの生物活性 プラークによるう蝕発生機構 プラークによる口臭発生機構 | | |
| 10 | 栄養の基礎 | 食生活と栄養 栄養素の消化・吸収 | | |
| 11 | 食事摂取基準 | 推定エネルギー必要量 基礎代謝 日本人の食事摂取基準 | | |
| 12 | 栄養素の働き | 糖質の栄養的意味 タンパク質の栄養的意味 脂質の栄養的意味 ビタミンの栄養的意味 ミネラルの栄養的意味 水の栄養的意味 食物繊維の栄養的意味 | | |
| 13 | 食生活と健康 | 国民の健康と栄養の現状 望ましい食生活 ライフステージ別の栄養と調理 | | |
| 14 | 食べ物と健康 | 食品の成分と分類 食べ物の物性 | | |
| 15 | 日本人の食事摂取基準 | 日本人の食事摂取基準 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 | | 期末試験 出席率 授業態度 | 80.0% 10.0% 10.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえて教科書、プリントを用いて予習する。 |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|----------------|---|---------|--------|
| 歯科衛生士概論 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 近藤 ちづる |
| 授業の概要 | | | | |
| 1 歯科衛生学とは 2 歯科衛生士の歴史 3 歯科衛生活動のための理論 4 歯科衛生過程 5 歯科衛生士法と歯科衛生業務 6 歯科衛生士と医療倫理 7 歯科衛生士の活動と組織 8 海外における歯科衛生士 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1 歯科衛生学の定義を述べるができる 2 歯科衛生士の誕生について概要を説明できる 3 予防の概念を理解できる 4 歯科衛生過程を説明できる 5 歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる 6 倫理の必要性について説明できる 7 歯科衛生士の活動の領域と就業の推移を説明できる 8 海外における歯科衛生士教育内容を概説できる | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | これまでの歯科衛生士としての経験を生かし歯科保健指導の講義に役立てる | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | ・ 歯科衛生学とは | ・ 歯科衛生士学とは ・ 歯科衛生と健康とは (WHO) ・ 歯科衛生活動の対象 ・ 歯科衛生活動の領域 | | |
| 2 | ・ 歯科衛生の歴史 | ・ 歯科衛生の誕生と経緯 ・ 歯科衛生の背景 ・ 歯科衛生業務の現状 ・ 歯科衛生士の役割と展望 | | |
| 3 | ・ 歯科衛生活動のための理論 | ・ 予防の概念 ① 第一次予防 ② 第二次予防 ③ 第三次予防 ・ 歯科衛生の考え方 | | |

| 回 | テーマ | 内容 | | |
|--------------------------|---|--|----------------|------------------------------------|
| 4 | ・ 歯科衛生士法と歯科衛生業務 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士と歯科衛生士法 ・ 歯科衛生士の役割 ・ 関連法規 ・ 安全管理 | | |
| 5 | ・ 歯科衛生過程 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生課程とは ・ 歯科衛生課程活用の利点 ・ 歯科衛生課程の流れ | | |
| 6 | ・ 歯科衛生士と医療倫理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理の必要性 ・ 医の倫理と患者の権利 ・ 歯科衛生と倫理 ・ 対象の自己決定権の尊重 ・ インフォームド・コンセント ・ 倫理の適用 | | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストの実施 ・ 歯科衛生士の活動と組織 | 歯科衛生士法と歯科衛生業務の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生活動の現況 ・ 歯科衛生活動の場 ・ 歯科衛生士と組織 | | |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外における歯科衛生士 ・ 歯科衛生士として社会に出る心構え | <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の歯科衛生士のあゆみ ・ 海外における歯科衛生士の現状 〈仕事場での心構え〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身だしなみ ・ 態度とことばづかい 〈職業人としての心構え〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を守る ・ 公私の区別をはっきりする ・ 行動するとともにつねに反省する ・ 自己の健康管理 ・ 秘密の厳守 ・ 仕事上のけじめをつける 〈人との対応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を知り、自分を知る ・ 公平な態度 ・ わかりやすい言葉 ・ 不安・被害者意識 〈観察と記録〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士の業務記録 3年の保管 〈清掃と保全〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全保持 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論（医歯薬出版） | | 期末試験 出席率 | 80.0% 20.0% | 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| | | | | |
|-------|----|------------|---------|--------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 職業倫理学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 近藤 ちづる |

授業の概要

歯科医療倫理学を学ぶことによって、医療従事者としての自覚を持つ

1. 序論

歯科衛生士が医療倫理を学ぶ理由

2. 医療従事者としての歯科衛生士の心構え

- ・ 歯科医療現場における医療従事者としての立場と視点
- ・ 歯科医療現場における人間関係

3. インフォームドコンセント

- ・ インフォームドコンセントとは何か
- ・ セカンド・オピニオンについて

4. QOL(生活の質)

- ・ QOLと歯科医療のかかわり方
- ・ 歯科衛生士としてのかかわり方

5. 行動学とは

医療現場における人の行動特性について

6. チームアプローチとは

- ・ チームアプローチの意義と必要性
- ・ 他職種とのチームアプローチと成功のポイント

7. 医療現場におけるコミュニケーション

- ・ 患者理解のためのコミュニケーションについて
- ・ 歯科保険指導・歯科診療・受付の場

8. 演習・まとめ

職場での人間関係・訪問歯科保険指導

授業終了時の到達目標

- ・ 歯科衛生士として必要な倫理観を説明出来る
- ・ インフォームド・コンセントの定義と重要性が説明できる
- ・ セカンドオピニオンの定義と重要性が説明できる
- ・ 患者の権利が説明できる
- ・ 患者理解のためのコミュニケーション技術を理解する

実務経験有無

実務経験内容

有

これまでの歯科衛生士としての経験を生かし歯科保健指導の講義に役立てる

時間外に必要な学修

| 回 | テーマ | 内容 |
|---|--------------------|--|
| 1 | ・なぜ歯科衛生士は医療倫理を学ぶのか | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な医の倫理・新しい医の倫理 ・ 医療倫理の四原則 ・ 医療従事者の基本的義務とは ・ 医師のパターナリズムとその問題点 ・ 患者中心の医療 ・ 歯科医療に関する権利と義務、および歯科衛生士の社会的使命 |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|---------------------------------|--|---|----------------|------------------------------------|
| 2 | ・医療倫理に関する規範とバイオエシックス | <ul style="list-style-type: none"> ・医の倫理に関する規範および国際規範 ・バイオエシックス（生命倫理学） ・バイオエシックスに関わる問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の始まりに関わる倫理的問題 | | |
| 3 | ・医療倫理に関する規範とバイオエシックス | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオエシックスに関わる問題 <ol style="list-style-type: none"> 2) 生命の終わりに関わる問題 3) その他の問題 | | |
| 4 | ・インフォームド・コンセント | <ul style="list-style-type: none"> ・インフォームド・コンセントとは何か ・インフォームド・コンセントの実際 ・インフォームド・コンセントと患者中心の医療 | | |
| 5 | ・研究と医療倫理 | <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、研究で医療倫理が必要なのか ・倫理的配慮の要件 ・研究への協力依頼 | | |
| 6 | ・歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療現場における人の行動 ・患者の行動 ・歯科医療従事者の行動 | | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト（前回までの授業の振り返り） ・その他歯科医療従事者に必要とされること | <ul style="list-style-type: none"> 〈ケーススタディ〉 ・入院患者の情報 ・電車の中での会話 ・ラインの書き込み ・学生実習のスケジュール表の貼りだし ・PDFファイルの共有 ・卒業生の名前を出さず教師 | | |
| 8 | まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理 ・生命倫理 ・研究倫理 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版（医歯薬出版株式会社） | | 期末試験 出席率 | 80.0% 20.0% | 【授業準備】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|------------------------------|--|---------|-------|
| 保存修復学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 美原 智恵 |
| 授業の概要 | | | | |
| 1. 歯の保存療法の種類について 2. 保存修復について 3. 保存修復における歯科衛生士の役割について | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 歯の保存療法について理解する。 2. 保存修復学における疾患の成り立ちと治療法について理解する。 3. 保存修復における歯科衛生士の役割について理解する。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 美原智恵：歯科医師として19年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし保存修復学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1. 歯の保存療法の種類 2. 口腔検査 | 1. 歯の保存療法の種類 1) 歯の保存療法と歯科保存学 2) 対象となる疾患 2. 口腔検査 1) 口腔検査の基礎知識と前準備 2) 医療面接 3) 現症 | | |
| 2~4 | 3. 保存修復の概要 | 1) 保存修復学とは 2) 窩洞と保存修復治療 3) 保存修復治療の概要 4) 保存修復治療の準備 5) 歯の切削、窩洞形成 6) 歯髄の保護 7) 保存修復法の種類 | | |
| 5~6 | 4. 直接法修復 | 1) コンポジットレジン修復 2) セメント修復 | | |
| 7 | 5. 間接法修復 6. 補修修復 7. 漂白 | 1) インレー及びアンレー修復 2) ベニア修復 3) 合着材および接着材 1) 補修修復の適応症と術式 1) 歯の着色・変色の原因と処置法 2) 歯の漂白法の種類と特徴 | | |

| 回 | テ ー マ | 内 容 | | |
|---|--------------------------------|--|----------------|--------------------------------|
| 8 | 8. 保存修復における歯科衛生士の役割 9. 期末試験 | 1) 材料・薬物の管理 2) 患者への説明と指導 1) 期末試験 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 授業用プリント | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|--|---------|---------------------------------|
| 歯内療法学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 木村 智子 |
| 授業の概要 | | | | |
| 歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴や病態、診査・治療・予防法および治療に必要な器具・材料について解説する。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 歯髄ならびに根尖歯周組織に生じる疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解できる。 それらの疾患を認識するための診査法を理解できる。 各種の治療・予防法について、意義、術式、術後経過についての知識を修得し、患者に説明できる。 治療に用いる器具・材料を理解し、診療補助を行うことができる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 歯科医師として14年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯内療法学の講義をする | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯内療法領域の主な疾患 | 象牙質知覚過敏症、歯髄炎、根尖性歯周組織疾患の原因、症状 | | |
| 2 | 歯髄保存療法 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法の適応症と術式、使用薬剤 各種治療法における診療補助 | | |
| 3 | 歯髄の除去療法 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 歯髄切断法、抜髄法の適応症と術式、使用器具・薬剤 各種治療法における診療補助 | | |
| 4 | 根管治療、根管充填 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 根管治療の術式、使用器具および薬剤 根管充填の時期、使用器具および材料 各種治療法における診療補助 | | |
| 5 | 外科的歯内療法 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 膿瘍切開法、根尖搔把法、根尖切除法、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、再植法、移植法、 各種治療法における診療補助 | | |
| 6 | 歯の外傷 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 破折性の外傷、脱臼性の外傷、歯の保存液 各種治療法における診療補助 | | |
| 7 | 歯内療法における安全対策 歯のホワイトニング 歯内療法における歯科衛生士の役割 | 器具の根管破折、根管壁穿孔、皮下気腫、器具の誤嚥、 皮膚・衣服汚染の対処 ウォーキングブリーチ法、オフィスブリーチ法、ホームブリーチ法 各種治療法における診療補助 | | |
| 8 | まとめ 後期末試験 | まとめ 後期末試験 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法 | | 期末試験 | 100.0% | 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| | | | | |
|-------|----|------------|---------|-------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 歯周療法学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 二宮 雅美 |

授業の概要

歯周病の発症原因と病態を理解するとともに、それらの予防法や治療法について学習し、歯科衛生士としての役割を把握する。

授業終了時の到達目標

1. 歯周組織の構造と機能について理解する。
2. 歯周病の種類および臨床像を理解する。
3. 歯周病の危険因子(リスクファクター)を説明できる。
4. 歯周病と全身疾患との関係を説明できる。
5. 歯周病の診査法と評価法を理解する。
6. 歯周病の治療計画の立案を理解する。
7. 歯周基本治療および歯周外科治療を理解する。
8. メンテナンスの意義や歯科衛生士の役割を理解する。

| | |
|--------|---|
| 実務経験有無 | 実務経験内容 |
| 有 | 二宮雅美：歯科医師として31年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯周病学の講義を行う |

時間外に必要な学修

授業で行った箇所の復習・次回の予習

| 回 | テーマ | 内容 |
|---|-------------------------------|--|
| 1 | 1. 歯周病学概論 2. 正常な歯周組織の構造と機能 | 歯周病の有病状況・歯周病学を学習することの意義 歯肉、歯槽骨、セメント質、歯根膜の理解 |
| 2 | 歯周病の分類と原因、歯周医学 歯周治療の進め方と検査 | 歯周病の治療の標準的な進め方 歯周組織検査、咬合検査、X線写真による検査、評価法 |
| 3 | 歯周基本治療 | 歯周基本治療の目的と分類、内容(TBI/スケーリング・ルートプレーニング) |
| 4 | 歯周外科治療 | 歯周外科治療の目的と分類、器材、介助の内容 |
| 5 | 歯周治療としての口腔機能回復治療 | 歯の固定法、歯周一矯正治療、インプラント治療など |
| 6 | メンテナンス・SPT | メンテナンス・SPTの違い、その重要性と意義 メンテナンス・SPTの具体的な内容 |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--|--------------------|---|-------------------------|-----|
| 7 | 歯周治療における歯科口腔衛生士の役割 | 歯周組織検査や治療時の補助、患者様の全身疾患の把握、リスクファクターに対する指導、TBI、スケーリング・ルートプレーニング 歯周外科治療の準備や介助、リハビリテーションとメンテナンス、SPT、器具・器材の管理、患者へのわかりやすい説明の仕方 | | |
| 8 | 期末試験 | これまでにを行った歯周病学の最終試験を行い理解度を評価する | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版 (医歯薬出版株式会社) 歯科衛生士講座 歯周病学 第3版 (永末書店) | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 10.0% 20.0% 70.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|------------------------|--|--------------------------------------|--------|
| 歯科補綴学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 永尾 寛 |
| 授業の概要 | | | | |
| 歯の欠損に伴う障害がどのようなものかを学習する。 歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について学習する。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 歯の欠損に伴う障害を説明できる。 歯科補綴学に関する器材・材料・治療の実際について理解する。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 実務経験：歯科医師歴 36年 これまでの歯科医師経験を生かし歯科補綴学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | | 内容 | |
| 1 | I編 補綴歯科治療に関する基礎知識 | | 1章 歯科補綴の概要 | |
| 2 | I編 補綴歯科治療に関する基礎知識 | | 2章 補綴歯科治療の基礎知識 1章 補綴歯科治療における検査 | |
| 3 | II編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 | | 2章 クラウン・ブリッジ治療 | |
| 4~5 | II編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 | | 3章 有床義歯治療 | |
| 6 | II編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 | | 4章 インプラント治療 | |
| 7 | II編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 | | 5章 特殊な口腔内装置を用いる治療 6章 補綴歯科治療における器材 | |
| 8 | 総まとめ | | 総まとめ、テスト | |
| 教科書・教材 | | | 評価基準 | 評価率 |
| 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版 (医歯薬出版) | | | 期末試験 | 100.0% |
| | | | | その他 |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|--|---------|------|
| 口腔外科学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 江口 覚 |
| 授業の概要 | | | | |
| 顎・口腔領域の疾患および、全身疾患との関連、その治療法について衛生士として必要な知識をみにつける。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| ①顎口腔領域の疾患の特徴、診断法、治療法を説明できる。 | | | | |
| ②口腔病変と全身疾患の関係を概説できる。 | | | | |
| ③清潔不潔を理解し院内感染防止対策を説明できる。 | | | | |
| ④口腔外科小手術を理解し、器財や手順を説明できる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 歯科医師として31年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし口腔外科学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1. 顎・口腔粘膜疾患と口腔外科 2. 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 | 1. ①口腔外科とは ②顎・口腔領域の特徴と主な疾患 ③口腔病変と全身疾患 ④基礎疾患と歯科治療 2. ①歯の発育異常 ②口腔軟組織野先天異常と発育異常 ③口唇裂・口蓋裂 ④顎の先天異常と発育異常 | | |
| 2 | 3. 顎・口腔領域の損傷と機能障害 | ①軟組織の損傷 ②歯および歯槽の外傷 ③顎骨骨折 ④顎関節疾患 | | |
| 3 | 4. 口腔粘膜の疾患 | ①水疱形成を主徴とする疾患 ②紅斑およびびらんを主徴とする疾患 ③潰瘍を主徴とする疾患④白斑を主徴とする疾患 ⑤色素沈着を主徴とする疾患 ⑥粘膜の萎縮を主徴とする疾患 ⑦口腔の乾燥を主徴とする疾患 ⑧粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患 | | |
| 4 | 5. 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6. 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 | 5. ①炎症とは ②歯周組織の炎症 ③顎骨の炎症 ④顎骨周囲組織の炎症 6. ①嚢胞とは ②顎骨に発生する嚢胞 ③軟組織に発生する嚢胞 | | |
| 5 | 7. 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 | ①腫瘍とは ②腫瘍の分類 ③歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍 ④腫瘍類似疾患 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|-------------------------------|---------------|---|-------------------------|--------------------------------|
| 6 | 8. 唾液腺疾患 | ①唾液と唾液腺 ②炎症性唾液腺疾患 ③唾石症 ④唾液分泌異常 ⑤唾液腺腫瘍 | | |
| 7 | 9. 口腔領域の神経疾患 | ①顎口腔の知覚神経と運動神経 ②神経痛 ③神経麻痺 ④神経痙攣 | | |
| 8 | 10. 口腔外科診療の実際 | ①口腔外科治療の流れ ②診察と診断 ③清潔と不潔 ④創傷の処置 ⑤口腔外科小手術⑥止血処置 ⑦縫合処置 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 (医歯薬出版) | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 10.0% 10.0% 80.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|----------------------|---|-------------------------|--------------------------------|
| 歯科麻酔学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 江口 覚 |
| 授業の概要 | | | | |
| すべての患者が安全で快適な歯科治療を受けられるようになるために、歯科麻酔に関する基本的な知識を身につける | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| ①全身状態の評価に必要な基本的事項を説明できる。 | | | | |
| ②局所麻酔法について説明できる。 | | | | |
| ③精神鎮静法について説明できる。 | | | | |
| ④全身麻酔の概要を説明できる。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 歯科医師として31年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯科麻酔学の講義を行う | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1. 歯科治療における歯科麻酔と患者管理 | ①歯科治療における歯科麻酔の立場 ②全身状態の評価と患者管理 | | |
| 2~3 | 2. 局所麻酔 | ①局所麻酔法 ②局所麻酔薬 ③血管収縮薬 ④局所麻酔に使用する機材 ⑤局所麻酔時の局所的偶発症 | | |
| 4~5 | 3. 精神鎮静法 | ①吸入鎮静法 ②静脈内鎮静法 ③精神鎮静法に際する一般的注意点 | | |
| 6~7 | 4. 全身麻酔 | ①術前管理 ②全身麻酔法 ③術中管理 ④麻酔覚醒と抜管 ⑤術後管理 ⑥全身麻酔下歯科治療と日帰り全身麻酔 | | |
| 8 | 5. 救急蘇生法 | ①歯科治療時の全体的偶発症 ②酸素療法 ③静脈確保 ④一次救命処置 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 (医歯薬出版) | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 10.0% 10.0% 80.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---------------------|---|---------|-------|
| 矯正歯科学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 久保 典子 |
| 授業の概要 | | | | |
| 歯科矯正学の定義が説明できる 不正咬合における障害を説明できる 矯正歯科治療の一般的なプロセスを説明できる | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 矯正歯科治療の歴史をたどりながら歯科矯正学の定義や知識と概念を学習する 2. 治療の必要性ベネフィットとリスク、チーム医療、歯科衛生士の役割について 3. 不正咬合の定義と特徴、治療の流れについて学習する | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | これまでの歯科医師としての経験を活かし指導する | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 授業で行った箇所の復習、次回の予習 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 1. 矯正歯科治療の概要 | 1) 歯科矯正学と矯正歯科治療の目的 2) 歯科矯正学と矯正歯科治療の必要性 3) チーム医療と歯科衛生士の役割 3) 矯正歯科治療のベネフィットとリスク 4) 矯正歯科治療とチーム医療 | | |
| 2 | 2. 成長発育、身体の成長発育 | 1) 成長発育の四ツ型 2) 全身の一般的な成長発育過程について 3) 骨の成長 4) 上下顎の成長発育、歯の交換の特徴 5) 咀嚼、嚥下、発音機能の発育 | | |
| 3 | 3. 正常咬合と不正咬合 | 1) 正常咬合の概念 2) Angleの分類 不正咬合の分類 | | |
| 4 | 不正咬合の原因 | 先天的原因と後天的原因 不正咬合の分類 | | |
| 5 | 矯正歯科治療における生体力学と生体反応 | 矯正力の種類 歯の移動様式 | | |
| 6 | 矯正歯科治療の実際 | 検査と診断 矯正歯科治療と装置 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------------|--------------|-------------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 7 | 矯正治療と歯科治療の実際 | 矯正歯科治療に伴うリスクとその対応 器材と使用の手順 | | |
| 8 | 8. まとめ・テスト | まとめ・テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 歯科矯正学（医歯薬出版） | | 出席率 期末試験 課題・レポート | 20.0% 70.0% 10.0% | 【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|-----------------------------|---------------------------------|----------------|---------------------------------|
| 小児歯科学 | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 8回 | 1単位(15時間) | 必須 | 鈴木 結加里 |
| 授業の概要 | | | | |
| 成長発達期にある小児の顎口腔領域の健全な育成が生涯に亘るQOLを支えることを認識し、顎口腔領域の疾患や異常の予防、診察・検査、診断、治療および治療の介助方法ならびに口腔健康管理の方法について理解する。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 胎児期から成人に至るまでの定型発達児、障害児、有病児の身体的成長、精神的・心理的発達について理解し、健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解するとともに、診療介助の方法を理解する。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する | | | | |
| 回 | テーマ | 内 容 | | |
| 1 | 小児歯科診療の基礎知識 | 小児歯科学概論 心身の発達 | | |
| 2 | 小児歯科診療の基礎知識 | 小児の生理的特長 顔面頭蓋の発育 | | |
| 3 | 小児歯科診療の基礎知識 | 歯の発育とその異常 歯列・咬合の発育と異常 | | |
| 4 | 小児歯科診療の基礎知識 | 小児の歯科疾患 小児の歯冠修復・歯内療法 | | |
| 5 | 小児歯科診療の基礎知識 | 小児虐待 (この回までの上記講義内容の補足) | | |
| 6 | 小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 | 小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者と対応法 | | |
| 7 | 小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 | 小児歯科における診察体系 障害児の歯科治療 | | |
| 8 | 小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 確認テスト | う蝕予防 小児の口腔健康管理 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 小児歯科 | | 出席率 期末試験 | 20.0% 80.0% | 【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--|--|---------|-------|
| 歯科予防処置論 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 23回 | 3単位(45時間) | 必須 | 井口 和美 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>歯科予防処置の概念、法的位置づけを学び、健康増進の目的を理解する。 人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕・歯周疾患予防についての専門的知識・技術を習得する。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>歯科予防処置法の種類・特徴を理解し説明ができる。(フッ化物・小窩裂溝充填) フッ化ジアンミン銀の取り扱いを理解し説明ができる。 歯周組織の名称・役割・特徴を理解し説明ができる。 正常な歯周組織と、口腔機能について説明ができる。 沈着物、付着物の違いを理解し説明ができる。 シックルスケーラーの基本操作を理解し、沈着物の除去ができる。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯科予防処置・保健指導の概要 | 歯科予防処置・歯科保健指導の必要性 歯科予防処置の定義と法的な位置づけ | | |
| 2 | 歯周組織および構造 予防の概念 | 歯周組織の構造と名称 | | |
| 3 | う蝕と歯周病の基礎知識 口腔内の付着物・沈着物の | 1. ペリクル 2. マテリアアルバ 3. 食物残渣 3. プラーク 4. 歯石プラークの形成過程について | | |
| 4 | う蝕と歯周病の基礎知識 歯石の特徴 色素沈着(ステイン) 舌苔 | 歯石の特徴 1) 沈着部位 2) 歯石の種類 3) 歯石の特徴 色素沈着(ステイン) 1) 外来性色素沈着 2) 内因性の色素沈着 舌苔 舌苔の成分と口臭 | | |
| 5 | 歯周病 歯周歯の分類 歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴 | 歯周病 歯周歯の分類 歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴 | | |
| 6 | 歯周病 歯肉炎・歯周炎の進行プロセス 歯周病の原因 | 1 歯肉炎・歯周炎の進行プロセス 2 歯周病の原因 1) 口腔内細菌 2) 宿主 ①局所性修飾因子 ②全身性修飾因子 3) 環境因子 3 歯周病が影響を与える疾患 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|------------------------------|-------------------------------------|---|------------------------|-----|
| 7 | 手用スケーラー基礎 シクルスケーラー | 1) 構成 2) 基本設定 3) 把持法 4) 固定 5) 操作法 操作運動 | | |
| 8~ 10 | シクルスケーラー操作① | 基礎石膏上での操作 (手指屈伸・前腕回転・手根関節運動) | | |
| 11~ 13 | シクルスケーラー操作② | ファントム実習 歯石の除去 | | |
| 14 | 患者からの情報収集 | 1) 情報収集の目的 2) 情報収集の項目 | | |
| 15~ 16 | 口腔内観察実習 | 歯牙本数 歯肉状態 沈着物 補綴物 う蝕の確認 | | |
| 17~ 18 | 相互実習 ① シクルスケーラー | 沈着物除去 ①赤染め⇒沈着物除去 | | |
| 19 | 歯周組織検査の種類 歯科器具の名称と役割 プロービングとは | Millerの分類 Linde&Nyman プロービング(4点法 6点法) プロービングの役割、操作方法 | | |
| 20 | 歯周組織検査 プロービング操作① | 持ち方、操作法、挿入法 | | |
| 21 | 歯周組織検査 プロービング操作② | ポジション、マキシラアングル | | |
| 22 | 歯周組織検査 プロービング操作確認試験 | 1. ポジショニングの確認試験 2. 4点法での操作・記入 | | |
| 23 | 確認テスト | | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 5.0% 30.0% 65.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|----------------------|---------------------------------|---------|-------|
| 歯科予防処置論Ⅱ | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 23回 | 3単位(45時間) | 必須 | 井口 和美 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>歯科予防処置の概念、法的位置づけを学び、健康増進の目的を理解する。 人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、う蝕・歯周疾患予防についての専門的知識・技術を習得する。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>科予防処置法の種類・特徴を理解し説明ができる。(フッ化物・小窩裂溝填塞) フッ化ジアンミン銀の取り扱いを理解し説明ができる。 歯周組織検査の目的を理解し、基本的な操作ができる。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | 歯周組織検査 プロービング操作確認 | 1. ホジショングの確認試験 2. 4点法での操作・記入 | | |
| 3~5 | プロービング相互実習 ① | 互実習 誘導、介助、術者(4・6点法) | | |
| 6 | う蝕予防処置法 フッ化物 ① | フッ化物の種類 特徴 取扱い | | |
| 7 | う蝕予防処置法 フッ化物 ② | 急性中毒 慢性中毒 | | |
| 8 | う蝕予防処置法 フッ化物 ③ | フッ化物 塗布方法 手順 | | |
| 9~11 | フッ化物 相互実習 | フッ化物塗布演習 | | |
| 12 | う蝕予防処置法 小窩裂溝填塞法① | 小窩裂溝填塞法 目的 特徴 | | |
| 13 | う蝕予防処置法 小窩裂溝填塞法② | 小窩裂溝填塞法 方法と手順 | | |
| 14~15 | う蝕予防諸理論 フッ化ジアンミン銀 | フッ化ジアンミン銀 使用用途 取り扱いについて | | |
| 16~17 | 超音波スケーラーの取り扱い | 超音波スケーラーの使用の目的、特徴、適応症、禁忌症 | | |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|------------------------------|------------------|--|------------------------|-----|
| 18 | 超音波パワー（機械的）スケーラー | 超音波スケーラーの原理と取り扱い エアスケーラーの原理と取り扱いスケーラー | | |
| 19 | 超音波スケーラーの取り扱い | 顎模型 下顎操作実習 | | |
| 20～ 22 | 超音波スケーラーの取り扱い | 顎模型 上顎操作実習 | | |
| 22 | まとめ 確認テスト | | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 | | 出席率 確認テスト 期末試験 | 5.0% 30.0% 65.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--------------------------|---|---------|--------|
| 歯科保健指導論 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 近藤 ちづる |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>口腔領域における健康教育の意義や重要性を理解し、その役割を担う専門職としての基礎的能力を身につける。</p> <p>口腔疾患の予防・抑制手段としての口腔清掃の方法、清掃用具と使用法、清掃による効果、清掃状況の評価方法に対する知識や技術について学習する。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>歯科保健指導の目的を理解している。</p> <p>歯科保健指導の対象となる各年齢層の特徴を理解し、症例別の歯口清掃用具・歯口清掃法が選択できる。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| <p>次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。</p> | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯科保健指導の基礎知識 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 永久歯の歯牙番号・名称について 2. 乳歯の歯牙番号・名称について 3. 上顎、下顎、左側、右側について 4. FDI方式 歯式について | | |
| 2 | 歯科保健指導論の概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科保健指導の必要性 2. 歯科保健指導の定義 3. 歯科衛生士法における歯科保健指導の位置づけ 4. 健康の概念 | | |
| 3 | 口腔の基礎知識 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔・口腔周囲の構造 2. 歯周組織 3. 歯冠と歯根の形態 4. 口腔の機能 | | |
| 4 | う蝕の基礎知識 食生活指導のための基礎知識 | <p>う蝕の基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. う蝕とは 2. う蝕の分類 3. う蝕の原因 <p>国民の健康と栄養の現状</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における国民の健康課題 2. エネルギー・栄養素・食品摂取の変遷 3. 近年の食生活の特徴 4. 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み | | |

| 回 | テーマ | 内 容 |
|----|---|--|
| 5 | 食生活指導のための基礎知識 | 食品とう蝕誘発性 1. う蝕は食生活習慣病 2. ショ糖とう蝕の関連性 3. 食品のう蝕誘発性 4. 代用甘味料 5. う蝕予防のための食品の摂取方法 |
| 6 | 食生活指導のための基礎知識 | 1. 酸蝕症と食生活 2. 咀嚼と食品 3. 特別用途食品と保健機能食品 |
| 7 | 保健行動支援のための基礎知識 歯科衛生アセスメントとしての情報 収集と情報整理 | 行動変容に関連する理論 1. 健康信念モデル 2. 社会的認知理論（自己効力感） 3. 変化のステージモデル 4. ストレスとコーピング 5. 動機づけ面接 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 1. 患者からの情報収集 2. 全身の健康状態の把握 3. 認知機能の把握 4. 生活環境と生活背景の把握 5. 生活習慣の把握 |
| 8 | 校内歯科保健指導の事前準備 | 原稿とチャート作り 1. 歯と歯周組織の構造 2. むし歯の進行 3. むし歯の発症 4. 6つの食品群 5. 三大好発部位 |
| 9 | 歯垢染色剤について | 1. 歯垢染色法の種類と方法 2. 歯垢染色剤の取り扱い |
| 10 | 分析のためのデータ | 1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標 |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------------------|-----------|--|----------------|-------------------------------|
| 11 | 分析のためのデータ | 1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標 | | |
| 12 | 分析のためのデータ | 1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標 | | |
| 13 | 分析のためのデータ | 1. 指数 1) プラーク・歯石の指数 (1)PCR (2)OHI (3)OHI-S (4)PII (5)PHP 2) 歯周疾患の指数 (1)PMA (2)PI (3)GI (4)CPI (5)根分岐部の指数 3) う蝕の指標 (1)DMF (2)defとdmf (3) その他の指標 | | |
| 14 | 分析のためのデータ | 問題プリント | | |
| 15 | 分析のためのデータ | 前期末まとめ | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】 | | 期末試験 出席率 | 90.0% 10.0% | 準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|----------------------------------|---|---------|--------|
| 歯科保健指導論Ⅱ | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 近藤 ちづる |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>口腔領域における健康教育の意義や重要性を理解し、その役割を担う専門職としての基礎的能力を身につける。</p> <p>口腔疾患の予防・抑制手段としての口腔清掃の方法、清掃用具と使用法、清掃による効果、清掃状況の評価方法に対する知識や技術について学習する。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <p>歯科保健指導の目的を理解している。</p> <p>歯科保健指導の対象となる各年齢層の特徴を理解し、症例別の歯口清掃用具・歯口清掃法が選択できる。</p> | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| <p>次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。</p> | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導 | <p>歯ブラシの種類・規格・管理について</p> <p>1) 手用歯ブラシ 2) 電動歯ブラシ 3) 音波歯ブラシ 4) 超音波歯ブラシ</p> | | |
| 2 | 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導 | <p>1. その他の清掃方法</p> <p>1) デンタルフロス 2) 歯間ブラシ 3) タフトブラシ 4) 粘膜ブラシ 5) スポンジブラシ 6) 舌ブラシ 7) 義歯用ブラシ 8) 口腔ケア用具</p> <p>2. 洗口液・洗口剤</p> <p>1) 種類 2) 基本的な使用法 3) その他の使用法</p> <p>3. 保湿剤について</p> <p>1) 種類 2) 基本的な使用法 3) その他の使用法</p> | | |
| 3 | 歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導 | <p>1. ブラッシング法</p> <p>1) 歯ブラシの毛先を使った方法 2) 歯ブラシの脇腹を使った方法</p> <p>2. 歯磨剤について</p> <p>1) 歯磨剤の成分による分類 2) フッ化物配合歯磨剤の特徴</p> | | |
| 4 | 校内歯科保健指導の事前準備 | <p>原稿づくり</p> <p>1. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 2. ブラッシング法(スクラビング法とバス法) 3. フッ化物配合歯磨剤の使用法について 4. 歯ブラシの交換時期について</p> | | |

| 回 | テ ー マ | 内 容 |
|-----|--|---|
| 5 | 演習 ・ブラッシング方法とデンタルフロスの操作方法について ・自分の口腔内の観察確認 | 1. 模型を使用してブラッシング方法とデンタルフロスの操作方法を習得する。 2. 自分自身の口腔内を観察する。 |
| 6~7 | 赤染め相互実習 | 赤染め相互実習 |
| 8 | 校内歯科保健指導の準備 | 1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. バス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について |
| 9 | 校内歯科保健指導の準備 | 1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. バス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について |
| 10 | 校内歯科保健指導の準備 | 1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. バス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について |
| 11 | 校内歯科保健指導の準備 | 1. 歯と歯周組織の構造について 2. むし歯の進行について 3. むし歯が発症する要因について 4. 6つの食品群 5. むし歯になりやすいところ 6. 歯ブラシの持ち方と磨く順番 7. スクラビング法 8. バス法 9. 歯磨剤の使用法について 10. 歯ブラシの交換時期について |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|--------------------------------------|-------------|--|----------------|-----|
| 12 | 校内歯科保健指導の実施 | 校内歯科保健指導の実施 1年次の総まとめとして今ある知識を分かりやすく相手に伝える力を身につける。 | | |
| 13 | 幼児対象集団指導の準備 | 幼児対象集団指導の準備 | | |
| 14 | 幼児対象集団指導の準備 | 幼児対象集団指導の準備 | | |
| 15 | 確認テスト | 確認テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】 | | 期末試験 出席率 | 90.0% 10.0% | |

| | | | | |
|-----------|-----|------------|---------|-------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 歯科診療補助論 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 23回 | 3単位(45時間) | 必須 | 四宮 直子 |

授業の概要

1. 歯科診療補助の概念
 - ①診療の補助とは
 - ②診療の補助の範囲の法的な変化
2. 医療安全と感染予防
3. 歯科診療における基礎知識
 - ①歯科診療室の基礎知識
 - ②歯科診療所における受診の流れ
 - ③共同動作
4. 歯科診療で扱う歯科材料
 - ①印象採得

授業終了時の到達目標

1. 歯科診療補助の業務内容と法的解釈を説明できる。
2. 診療の補助を行う医療職種とその業務について説明できる。
3. 医療安全の概念とその対策を説明できる。
4. インシデント・アクシデント報告の目的を具体的に述べるができる。
5. 自動体外式除細動器(AED)の取り扱いができる。
6. 歯科医療における感染症の概念とその対策を説明できる。
7. スタンダードプレコーションを具体的に説明できる。
8. 感染事故時の対応を判断することができる。
9. 手指消毒やグローブの装着・脱着が実施できる。
10. 歯科診療室の環境、設備について説明できる。
11. 歯科診療所における患者対応を説明できる。
12. 共同動作の概念を述べるができる。
13. 適切なポジショニングを実施できる。
14. 器具の取り扱いや受け渡しを実施できる。
15. フォーハンドテクニックの基本動作を実施できる。
16. バキュームの基本動作を実施できる。
17. 歯科薬品や材料の適切な管理を説明できる。
18. アルジネート印象材の特徴、用途を説明できる。
19. アルジネート印象材の練和と管理を実施できる。
20. 印象採得(概形印象)とその対応を実施できる。

実務経験有無

実務経験内容

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

| 回 | テーマ | 内容 |
|---|---------------------------|---|
| 1 | 診療の補助とは 診療の補助の範囲の法的な変化 | 1. 歯科衛生士の業務と歯科診療補助 2. 看護師の行う診療の補助 3. 診療補助業務と他の医療職種 4. 診療の補助の範囲の法的な変化 |

| 回 | テーマ | 内 容 |
|-----------|------------------|--|
| 2~ 3 | 歯科診療室の基礎知識 | 1. 歯科診療室の環境 2. 歯科診療室の構造と設備 3. 歯科用チェアユニット 4. その他の設備 5. 特殊な設備がある歯科診療室（手術室） |
| 4 | 歯科診療所における受診の流れ | 1. 歯科診療所における患者対応の基本 2. 特別な配慮が必要な患者対応 |
| 5 | 身だしなみの基本 患者誘導 | 1. 身だしなみの基本 2. 患者誘導 |
| 6 | 薬品（薬物）・歯科材料の管理 | 1. 基礎的知識 2. 取り扱いの実際 |
| 7 | 感染予防 | 1. 手指衛生（手指消毒） 2. グローブ装着・脱着の手順 ※ラテックスアレルギーについて |
| 8 | 医療安全 | 1. 医療安全 2. 歯科診療での補助業務 3. 医療法と医療安全対策 4. 救急処置 5. 救命処置のアルゴリズム |
| 9 | 共同動作 | ・共同動作の概念 ・術者・補助者・患者のポジショニング |
| 10 | 共同動作 | ・ミラーテクニック ・ライティング |
| 11 | 共同動作 | バキュームテクニック |
| 12 | 共同動作 | ・スリーウェイシリンジテクニック ・フォーハンデッドデンティストリー ・バキュームテクニック |
| 13 | 共同動作 | 器具の受け渡し |
| 14~ 15 | 共同動作（相互実習） | 共同動作 |
| 16 | 感染予防 | 1. 歯科医療における感染症の概念 2. 歯科医療における感染予防対策 |
| 17 | 印象採得 | 基礎知識 |

| 回 | テーマ | 内 容 | | |
|------------------------------|---------------------------|--|-------|-----|
| 18 | アルジネート印象材 アルジネート印象材練和法 | アルジネート印象材の特徴 アルジネート印象材の種類 使用する器材の準備 印象材の計量 練和法 | | |
| 19 | アルジネート印象材による概形印象 採得 | 1. 種類 2. 使用する器材の準備 3. 印象材の計量 4. 練和法 | | |
| 20 | アルジネート印象材による概形印象 採得 | 1. 使用する器材の準備 2. 印象材の計量 3. 練和法 4. トレーへの盛り付け | | |
| 21～ 23 | アルジネート印象材による概形印象 採得 | 1. 印象採得 2. 印象体の保管 3. トレーの後始末 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医 歯薬出版） | | 出席率 | 5.0% | |
| 歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出 版） | | 確認テスト | 5.0% | |
| 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出 版） | | 実習・実技評価 | 20.0% | |
| | | 期末試験 | 70.0% | |

| | | | | |
|----------|-----|------------|---------|-------|
| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 歯科診療補助論Ⅱ | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 23回 | 3単位(45時間) | 必須 | 四宮 直子 |

授業の概要

1. 感染予防
 - ①滅菌・消毒・洗浄
 - ②医療廃棄物の取り扱い
2. 歯科診療で扱う歯科材料
 - ①印象採得
 - ②模型の作製
 - ③合着・接着の補助
 - ④成形歯冠修復の補助

授業終了時の到達目標

1. 滅菌、消毒、洗浄の方法について説明できる。
2. 消毒剤の特徴と用途について説明できる。
3. 医療廃棄物の分類と分別を説明できる。
4. 印象材の特徴、種類、用途を説明できる。
5. 各種印象材の取り扱い、管理を実施できる。
6. 印象採得とその対応を実施できる。
7. 歯科用石膏の特徴、種類、用途を説明できる。
8. 歯科用石膏の練和と管理を実施できる。
9. 合着材や接着材の特徴、種類、用途を説明できる。
10. 合着材や接着材の練和を実施できる。
11. 成形歯冠修復材の種類と取り扱いを説明できる。

実務経験有無 実務経験内容

時間外に必要な学修

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

| 回 | テーマ | 内容 |
|-------|--|---|
| 1~2 | 寒天印象採得時の補助 合成ゴム質印象の補助 その他の印象材の取り扱い | 1. 寒天印象材の準備 2. 寒天-アルジネート連合印象 3. シリコンゴム印象材による精密印象採得の補助 4. 個人トレー、個歯トレーを使用した精密印象 5. モデリングコンパウンド 6. 酸化亜鉛ユージノール印象材 7. デジタル印象 |
| 3~4 | アルジネート印象材による概形印象採得(相互実習) | 概形印象採得 |
| 5~6 | 感染予防 | 滅菌と消毒 |
| 7~8 | 衛生材料 | 1. 種類 2. 作製 3. 取り扱い |
| 9 | 医療廃棄物の取り扱い | 1. 廃棄物の概要 2. 歯科診療室で発生する廃棄物 |
| 10~12 | 模型の作製 | 1. 歯科用石膏の基礎知識 2. 歯科用石膏の練和 3. 歯科用石膏の管理方法 |

| 回 | テーマ | 内容 | | |
|-----------|--------------------------|--|-------|-----|
| 13~ 16 | 合着・接着の補助 | ポリカルボキシレートセメント、ガラスアイオノマーセメント、接着性レジンセメント、リン酸亜鉛セメント 1. 合着材・接着材の基礎知識 2. 練和法 3. 合着・接着の際に患者に説明しておくべき事項 | | |
| 17~ 18 | 成形歯冠修復の補助 | 1. 基礎知識 2. 成形歯冠修復材の種類 3. コンポジットレジンの取り扱い 4. グラスアイオノマーセメントの取り扱い | | |
| 19~ 20 | アルジネート印象材による概形印象採得（相互実習） | 概形印象採得 | | |
| 21 | 共同動作（相互実習） | 共同動作 | | |
| 22 | 合着材・接着材の練和 | セメント練和 | | |
| 23 | トレーセッティング | 1. 保存修復用器材 2. 歯内療法用器材 3. 歯科補綴用器材 4. 口腔外科小手術用器材 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 歯科衛生学シリーズ | 歯科診療補助論（医歯薬出版） | 出席率 | 5.0% | |
| 歯科衛生学シリーズ | 歯科材料（医歯薬出版） | 確認テスト | 5.0% | |
| 歯科衛生学シリーズ | 歯科機器（医歯薬出版） | 実習・実技評価 | 20.0% | |
| | | 期末試験 | 70.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---------------------|----------------------------|----------------|-------|
| 総合学習 I | | 歯科衛生士学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 井口 和美 |
| 授業の概要 | | | | |
| 臨床実習前の総合学習 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 患者対応 医療面接の内容を理解する 2. 治療の流れを理解し、準備ができる 3. 治療の流れに沿った、超音波スケーラーが使用できる 4. 歯周組織について理解し、歯面研磨ができる | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| | | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 歯科衛生士アセスメントとしての情報収集 | 医療面接 | | |
| 2~3 | ロールプレイ | 医療面接ロールプレイ | | |
| 4~5 | 患者対応ロープレ | | | |
| 6 | 口腔内撮影 | 撮影の基礎学習 | | |
| 7 | 印象採得 | 総合演習 | | |
| 8~10 | 超音波スケーラー | 総合演習(下顎) | | |
| 11~13 | PMTC PTC | PMTC PTCの違いについて理解し、総合演習を行う | | |
| 14 | 臨床実習前 確認試験 | | | |
| 15 | 臨床実習前 確認試験 | | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科診療補助論 | | 出席率 期末試験 | 10.0% 90.0% | |